

フェスタサマーミュージーザ

KAWASAKI 2020

ミュージーザ川崎シンフォニーホール

サマーミュージーザは全公演ライブ配信を実施しております。客席内と舞台上に映像収録カメラが入りますので、予めご了承ください。

群馬交響楽団

Gunma Symphony Orchestra

ベートーヴェン生誕250年 職人技が光る、明朗な交響曲

8/1

● プレトーク
14:20~14:40話=高関 健
※本公演と同じお席でお楽しみください。● 開演
15:00● 終演予定
17:00

曲目

ベートーヴェン:交響曲第4番 変ロ長調 作品60 (35分)

Beethoven: Symphony No. 4 in B-flat major, Op. 60

- 第1楽章 アダージョー アレグロ・ヴィヴァーチェ
- 第2楽章 アダージョ
- 第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ
- 第4楽章 アレグロ・マ・ノン・トロツポ

—休憩(20分)—

ベートーヴェン:交響曲第2番 二長調 作品36 (35分)

Beethoven: Symphony No. 2 in D major, Op. 36

- 第1楽章 アダージョ・モルトー アレグロ・コン・ブリオ
- 第2楽章 ラルゲット
- 第3楽章 スケルツォ:アレグロ
- 第4楽章 アレグロ・モルト

※演奏時間は目安です。

出演

指揮: 高関 健(名誉指揮者)

コンサートマスター: 伊藤文乃(コンサートマスター)

※出演者・公演内容につきましては変更が生じる場合がございます。

■出演者プロフィール



© 堀田力丸

指揮: 高関 健 Ken Takaseki, Conductor

群馬交響楽団名誉指揮者。国内主要オーケストラで重要ポジションを歴任。海外への客演も多く、サンクトペテルブルグ・フィル定期演奏会では聴衆や楽員から大絶賛を受ける。新国立劇場等オペラでも好評を博し、マルタ・アルゲリッチをはじめとする世界的ソリストや作曲家からも絶大な信頼を得ている。現在、東京シティ・フィル常任指揮者、仙台フィルレジデント・コンダクター、静岡交響楽団ミュージック・アドバイザー、東京藝術大学指揮科教授 兼 藝大フィルハーモニア管弦楽団首席指揮者。2019年3月には『ロシアにおける日本年』の一環としてロシアで團伊玖磨のオペラ「夕鶴」を指揮、日露両国の文化交流に大きな役割を果たした。第50回サントリー音楽賞(2018年度)を受賞。

■オーケストラ・プロフィール

群馬交響楽団 Gunma Symphony Orchestra

- 【創設】 1945年、文化を通じた戦後復興を目指して創立。
- 【指揮者】 小林 研一郎(ミュージック・アドバイザー)、高関 健(名誉指揮者)、マルティン・トゥルノフスキー(名誉指揮者)
- 【楽団員数】 61名
- 【ホーム・コンサート・ホール】 高崎芸術劇場
- 【楽団ウェブサイト】 <http://www.gunkyo.com/>



● 感動をもう一度! アーカイブ配信で本日の演奏をお楽しみいただけます。 [1公演 1,000円] 配信期間: 公演翌日12:00~8/31(月)23:59 <https://tigit.net/tours/summermuza2020/>

● アンコール曲 ● ほぼ日刊サマーミュージーザ ONLINE! ● アンケート ● パートナーショップ特典はこちらの特設サイトより <https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

ミュージーザ川崎シンフォニーホール ホールスポンサー		ミュージーザ川崎シンフォニーホールの公演事業は、ホールスポンサーの皆様によって支えられています。	
法人 【特別賛助会員】 有限会社エムシーエス・デザインズ 神奈川臨海鉄道株式会社 川崎アゼリア株式会社 公益社団法人川崎市医師会 川崎幸病院 川崎信用金庫 川崎フロンターレ キヤノン株式会社 サントリーホールディングス株式会社 大本山川崎大師平間寺 三井不動産グループ 株式会社ヨドバシカメラ 【賛助会員】 税理士法人あおぞら会計 味の素株式会社 川崎事業所 アルファクス株式会社 株式会社イープラス ENEOS株式会社	セレサ川崎農業協同組合 高橋昌也税理士・FP事務所 株式会社デイ・シー 東亜石油株式会社 株式会社 東芝 東洋ロザイ株式会社 日本窯炉株式会社 びあ株式会社 富士電機株式会社 ホルメトロポリタン川崎 株式会社ムーブエイト ヤマハサウンドシステム株式会社 * 大宮町町内会 共奏・ドリームフィルハーモニーオーケストラ 遊園電子工房	個人 阿部 孝夫 磯野 和久 市橋信一郎 井上 敏昭 遠藤 智和 大木志乃生 大越麻美子 大塚 具幸 小笠原 将 岡野 功 小野 洋彰 金山 直樹 喜多 絢一 久住 映子 小菅みつほ 後藤 実 小林 知子	斉藤 隆徳 佐藤 亨 佐藤 晴茂 鈴木 徹 関口 浩・三代子 他器名6名 高橋 美子 竹内 啓介 都築 豊 中村紀美子 西山 英昭 橋本あみ子 長谷川喜代江 林 直人 平野 信子 廣瀬 治昇 前田 泉 松本 武巳 山内 利夫

(2020年7月1日現在)

△ 新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、ご協力をお願いいたします。

【お客様へのお願い】

※マスク着用、手指消毒にご協力ください。

※終演後は、スタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いている扉から混雑を避けてお帰り下さい。

※出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。

※万一、クラスター(感染集団)の発生が明らかになった際、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

【館内設備について】

※クローク、ドリンクコーナー、ショップの営業はございません。

※冷水器の使用は停止しております。

※換気のため、通常よりも空調を強めにしております。また、隣席を空けているため、普段よりも寒く感じる場合がございます。

※万一、クラスター(感染集団)の発生が明らかになった際、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

※アンコール曲は公演後、当ホールホームページに掲載いたします。

ご登録をお願いします

神奈川県 LINE コロナお知らせシステム

会場内に掲示しているQRコードを読み取ってください。新型コロナウイルスに感染された方が発生した際、保健所の調査に必要と判断された場合にLINEメッセージが届きます。

※来場日ごとに、QRコードの読み取りをお願いします。

ホール内は小さな音でもよく響きますので、ご協力をお願いいたします

🚫 演奏中の入退場はご遠慮ください。

🚫 全席指定の公演です。ご自分のお席でお聴きください。

🚫 ホール内客席では携帯電話、スマートフォンなど全ての電子機器の電源をお切りください。タブレット端末など光を発する機器も、周囲の方の鑑賞の妨げとなりますので、ご使用にならないようお願いいたします。

🚫 時計のアラーム・時報などは設定の解除をお願いいたします。

🚫 許可のない写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。

🚫 鈴のついたアクセサリー、お手持物などは演奏中に音が出ないように、十分ご注意ください。また、アメの包み紙を開ける音にもご注意ください。

🚫 ホール内での飲食はご遠慮ください。

🚫 ※曲が終わったとき、音が消えゆく余韻を十分に味わってから、拍手をお送りください。

【補聴器をお使いの皆さまへ】
補聴器が正しく装着されていることをご確認くださいませよう、お願いいたします。

主催: 川崎市、ミュージーザ川崎シンフォニーホール (川崎市文化財団グループ)
 後援: 川崎市教育委員会、公益社団法人 日本オーケストラ連盟、J-WAVE 81.3FM、OTTAVA
 助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
 映像・音響制作: YouClassics
 協力: 株式会社東京MDE、エヌ・ティ・ティ・スマートコネクト株式会社



30代のベートーヴェンが躍動する交響曲 ニックネームがなくても魅力は満載！

●新しい世紀の交響曲を創造

9曲あるルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）の交響曲の中で、「英雄」「運命」「田園」といったニックネームをもつ作品に比べると、交響曲第2番および第4番はやや地味な印象・評価に甘んじている。しかしこの2曲は30代のベートーヴェンが、交響曲という分野におけるさまざまな実験を試み、ハイドンやモーツァルトら前世紀（18世紀）の影響から脱却して新しい世紀（19世紀）の交響曲を創造しようと努めていた時代の産物なのだ。もし本日、この2曲を初めて聴くという方がいらっしゃるのなら、ベートーヴェンならではのパワフルな響きやオーケストラの各パート（楽器）がスリリングに音を受け渡す様子、次々に繰り出される多彩なリズムの饗宴などを十分にお楽しみいただけるだろう。

●多くの名曲を生んだ充実期の一作、交響曲第4番

第3番「英雄」から第5番「運命」へ至る時期の中で書かれ、ロベルト・シューマンによる「2人の北欧神話の巨人（第3番と第5番）に挟まれたギリシャの乙女」という評があまりにも有名になった**交響曲第4番**は、おとなしい曲というイメージが一人歩きしてしまった感がある。たしかに優美なメロディも散りばめられているが、スピード感や躍動感も、刺激的なオーケストレーションのアイデアもこの交響曲の特徴であり、多くの意欲作を次々と生み出していた時期における代表曲のひとつとして、さらに人気が高まってほしい。

作曲時期は1806年、ベートーヴェンが35歳のとき。オペラ「フィデリオ」の前身である「レオノーレ」を改訂して初演し、前年から作曲していたピアノ協奏曲第4番が完成。さらには「ラズモフスキー四重奏曲集」と呼ばれる3曲セットの弦楽四重奏曲（第7番～第9番）や「自作の主題による32の変奏曲」（ピアノ曲）などが次々に書かれた充実期の一作である。初演は1807年3月に支援者の一人だったロプコヴィッツ侯爵の邸宅で行われ（プライベートなコンサート）、同年11月にウィーンのブルク劇場で一般聴衆に披露された。

第1楽章は神秘的な雰囲気です幕を開け、軽快なテンポの主部になると多彩なリズムが音楽にさまざまな表情を与えていく。第2楽章は穏やかな雰囲気を保ちながらも、ところどころで力強さを見せる。終盤の静かなティンパニ独奏は、ごく短いながらもこの楽器に光を当てるアイデア。舞曲風のリズムが躍動感を生み出す第3楽章を経て、細かな音の連続が独特のリズムを構成している第4楽章へ。聴き手の耳を惹きつける木管楽器のパッセージなど、挑戦的ともいえるオーケストレーションが際立っている。

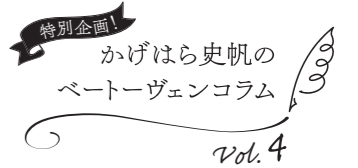
●難聴で苦悩した時期の意欲作、交響曲第2番

1800年4月、29歳のベートーヴェンはウィーンで自作を発表するコンサートを行い、

自身の指揮で交響曲第1番を初演。**交響曲第2番**はその3年後となる1803年4月に、やはり自作を集めたコンサートにおいて公開初演された。その3年間、ベートーヴェンはバレエ音楽「プロメテウスの創造物」、「春」と称されるヴァイオリン・ソナタ、「月光」というニックネームで親しまれているピアノ・ソナタなどを作曲。現在は作曲家としても有名なカール・チェルニーをはじめ、ピアノの弟子も増えて充実した日々を送っていたと思われる。しかしその一方では難聴が進行し、1802年10月には「ハイリゲンシュタットの遺書」と呼ばれる手紙を執筆。家族や親族、友人たちへ自分の苦悩を書き連ねながら、芸術によって救われることにも言及している。芸術家としての死を意味する耳の疾患が当時のベートーヴェンを絶望させていたことを伝えるこの手紙は、不屈の芸術家というイメージを作り上げることに寄与した重要な証だといえるだろう。

交響曲第2番はこの手紙が書かれる以前、1802年3月頃には完成していたようだが、耳の状態に違和感を抱きながらも新しい時代の音楽を探っていたということは想像できる。衝撃的な音による幕開け（第1楽章の序奏）から始まり、全4楽章が常に前進する力強さと希望、エネルギーにあふれた作品である。

■やり手商売人が ベートーヴェンと会った理由とは……？



『交響曲第4番』が初演された1807年。
36歳のベートーヴェンは、旅行中のクレメンティと出会いました。

ムツィオ・クレメンティ。今日ではピアノ初級者のためのソナチネの作曲家としてよく知られています。ソナチネを聴くと、まじめそうなピアノの先生かな？という印象を受けますが、実はかなりやり手の商売人でした。ロンドンを拠点に、作曲家、ピアニスト、ピアノ教師、さらにはピアノ製造業、音楽興行、音楽出版業などに手を出してすべて大成功した、マルチタイプの音楽ビジネスマンだったのです。

そんな彼のウィーン訪問のお目当て。それこそがベートーヴェンの作品の出版でした。当時のベートーヴェンは人気うなぎのぼりの作曲家。わけても初演されたばかりの『交響曲第4番』は、狙い目の作品だったに違いありません。

当初は同じ音楽家としてのライバル心を抱いてか、あるいはあまりの商売っ気の強さにうさんくささを感じていたのか、つれない態度だったベートーヴェン。しかし交渉はぶじ成立し、クレメンティは『交響曲第4番』を含むいくつかの作品の著作権を得たのでした。

「私はついにベートーヴェンをモノにした！」うれしさのあまり、クレメンティはそんな報告を共同事業者に書き送っています。百戦錬磨の商売人にとっても、ベートーヴェンは難攻不落の城だったのでしょ。

(かげはら史帆/ライター)